
特別
~13
1180
15

先雷也氣傑譚

第卅七編上冊

柳亭種員作

一壽画

国貞重

甘永堂

一種の伽羅も衣裳ふ薫ともしくと佛前ふ灶と陽と陰との相違あて幻術ふおゐてやまさ邪道ふ是と用ると正路ふ依て行くふ善と悪との差別ありて兒雷也が中道より非義と悔善ふ歸せるの後其術必悪を排烏ふ行趣そ先編の序文ふ述つれバ今此巻ふりめぐりくるを細手ふ蛞蝓の奇術ハ猶更元來地儡の感應慈善義軍と興る今川時秋と大洋の中ふ救妖曲ふ老ー鰐淵現藤太と郊原ふ蹴たると勸善懲悪悪ふ限るやうなれども善と助る一端ふもあるふ一品の伽羅ふ陰陽あるふ等ものふと比れど煙ふ似さる錯乱不文花香もあらぬ頑物語ハ只春の徒然ふ児童の欠伸を慰ん事と欲而已

安政巳未初春

柳下亭種員識


高砂勇見之助好照田

鰐淵現藤太


月影深雪之助照道


山賊
大蛇丸


勇婦
細手
杜戸濱之助
入道清心





義助於望ノ怨魂

力松更名して
姫松須磨太郎





持
畑
顔
刀
刀



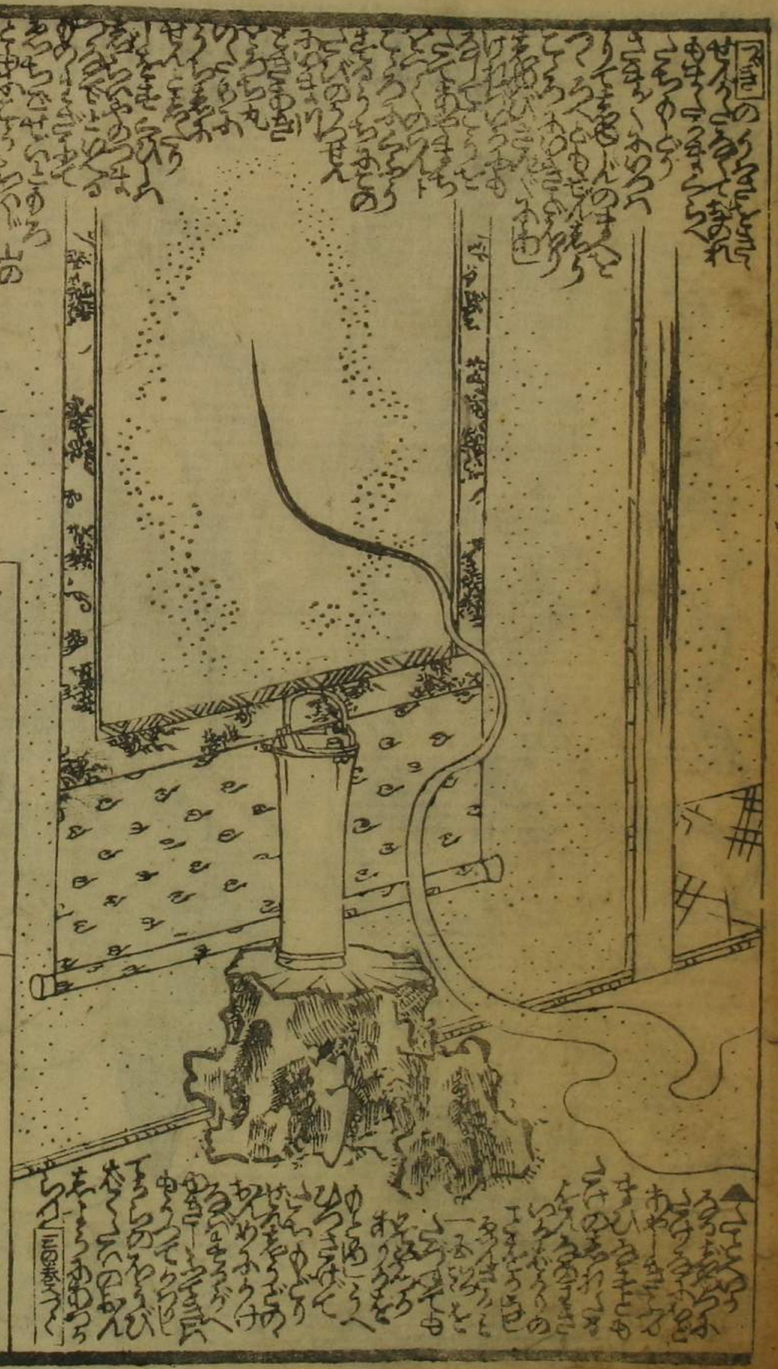
綱

それらの事は後の巻ふ彼勇婦ノ物語そのお時貝の合期を知てまつべし





つれてこちら
蛞蝓仙人の画像



種員作　國貞画

仮名反古一休草紙　十二編　一雄斎國貞画

小女郎蜘蛛の古巣　三編　曲亭馬琴作　一勇斎國芳画

照天松操月鹿毛　三編　六編　大尾　春風亭柳枝作　一雄斎國種画

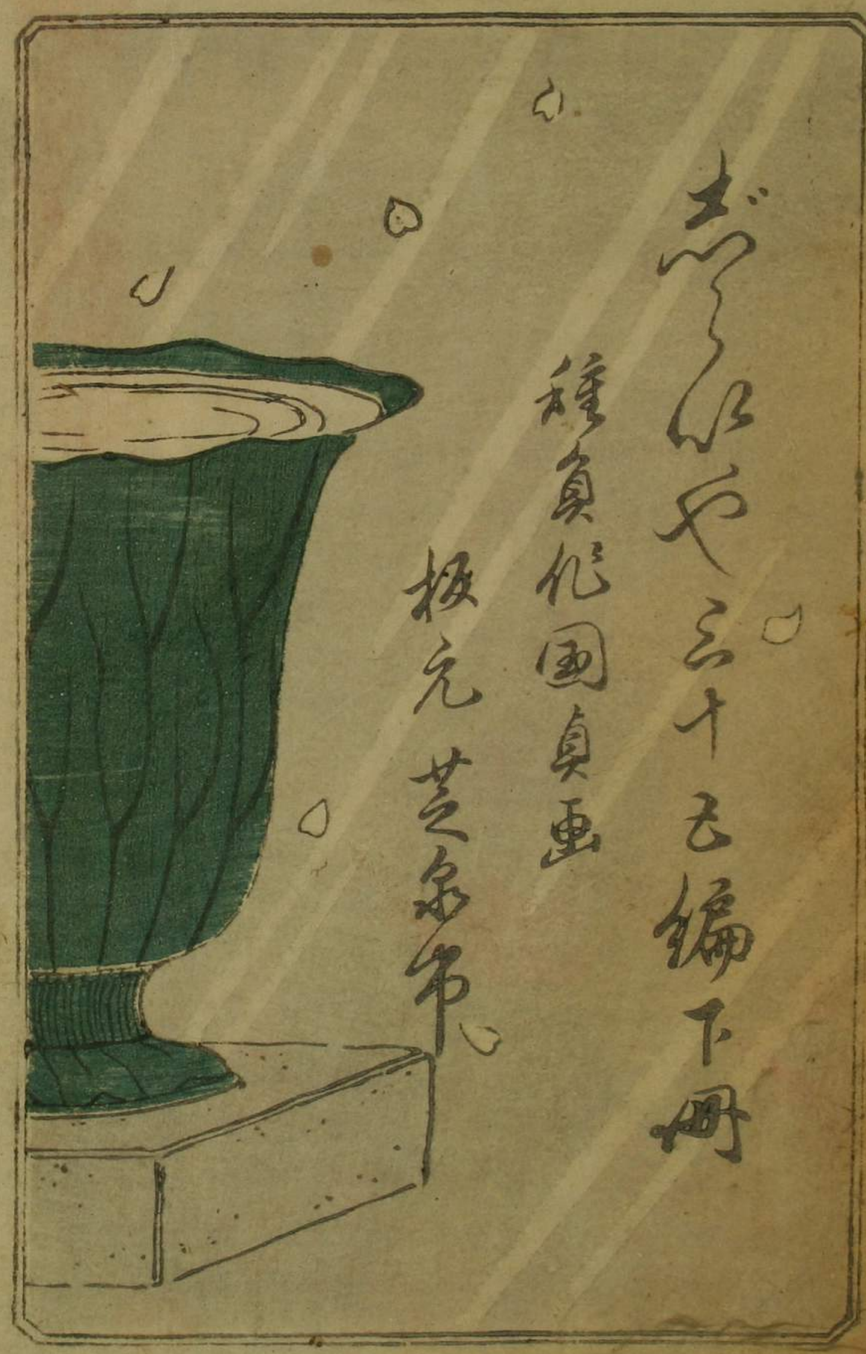
風俗浅間嶽　六編　七編　柚亭校合　種久朴作　國貞画

御理亭種久作　一寿斎國貞画　忠臣呂布　沙呂姫　文摩　初編二編発売　後編二冊別に売る

柳亭種員校　一陽斎豊國助画　梅素亭玄魚補

児雷也豪傑譚





おもかげ三十六編下冊

種員作 国直画

板元 芝金吾




清


現


相摸國高麗寺
山の陣中ゟ鎗手
蛞蝓丸の短刀と
乞預る




序
詣
半七
半
大福帳

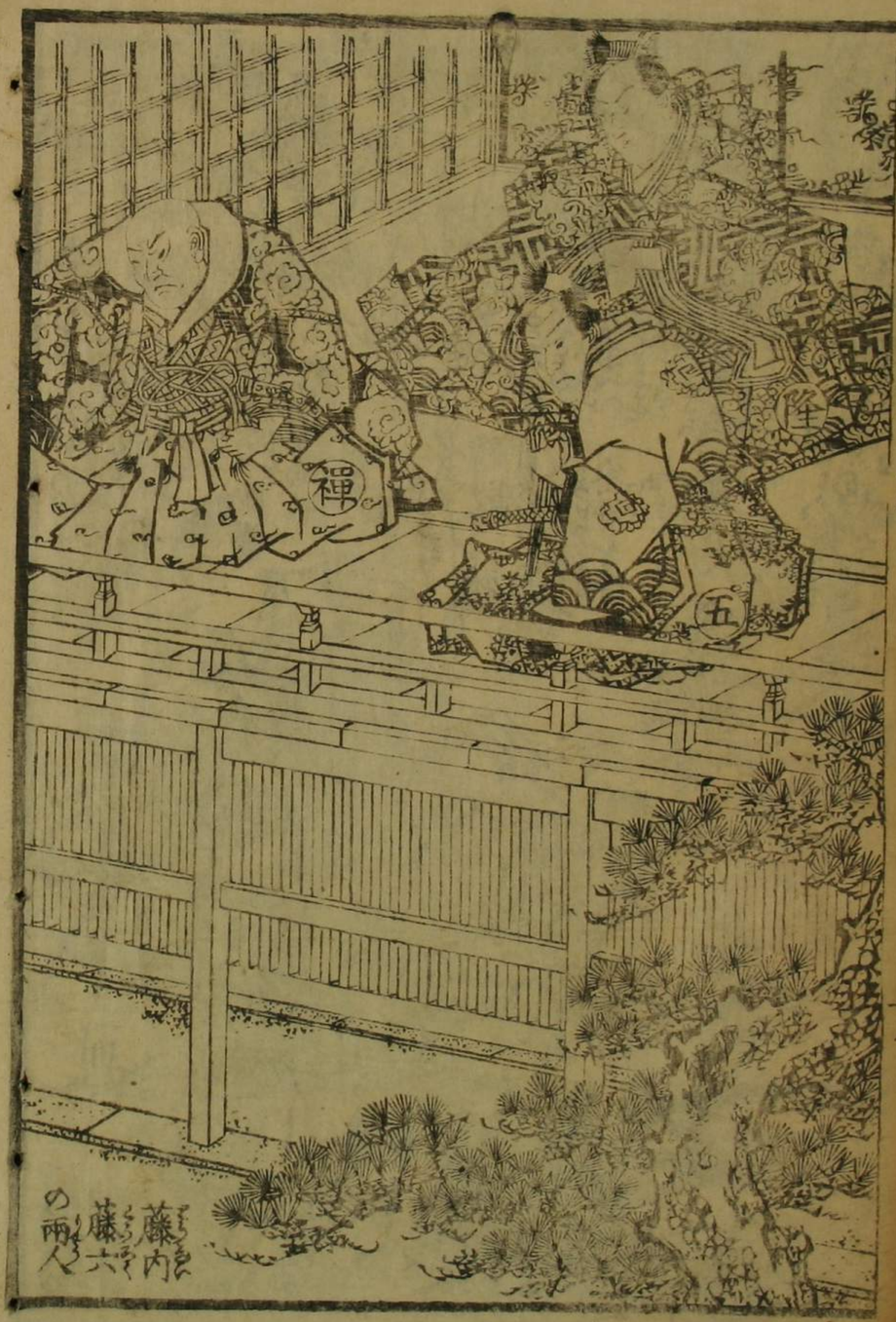

花


柿
柿


柿
紀
吠




内
隈浦
兄弟兒雷也が
密計を受て
伊豆より
鎌倉へ
戻



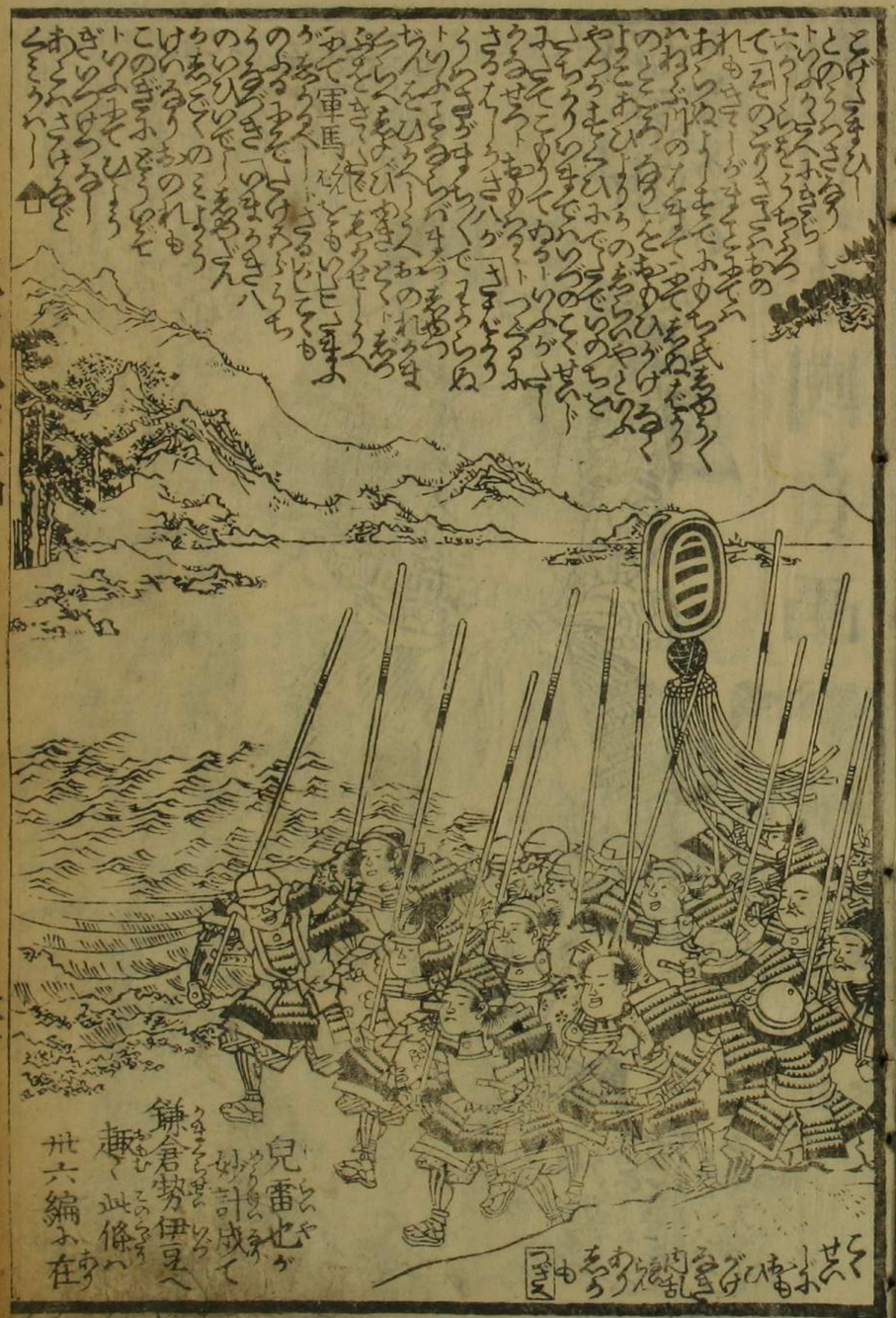
藤内
藤六
の兩人



滿隆禪
秀等
欺く
事ハ

◗巻の末ハ
僅ニ
いひそ猶
委ハ此六編
小說





兒雷也が好計成て鎌倉勢伊豆へ趣く此條は前六編ふ在

種員作國貞画



源平打越 双六

女郎花五色石臺 八編 九冊 一雄斎国貞画

新編金瓶梅 十編三十冊 曲亭馬琴作 一陽齋豊國画

黄金水大学盃 七編 八冊 為永春水作 歌川國貞画

一猫齋芳虎画

三十六歌仙詠色 双六

柳下亭種員作

兒雷也豪傑譚 前一冊 二編 三編

寿齋國貞画

嘉永癸丑新刻 甘泉堂 和泉屋市兵衛版

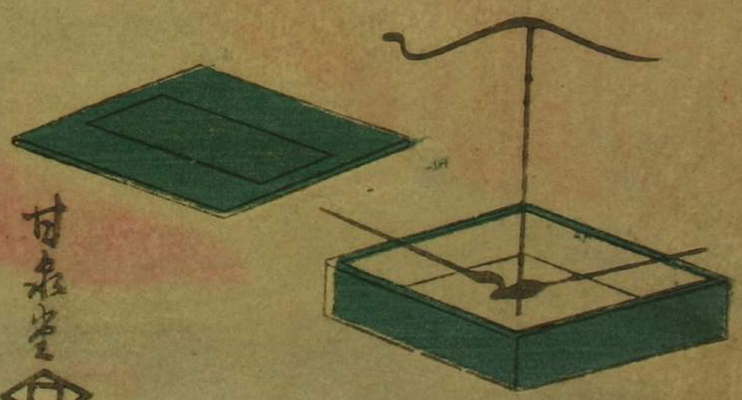
兒雷也豪傑譚三十六編

上

兒雷也

卅六編 上冊

東京 高橋吉右衛門 梓行



兒雷也豪傑譚 第三十六編序

漢土の杜元劉い左傳の癖あり王福時い子と謀癖なり
和朝ゟ時平公ゟ笑癖有せと詠たまひし〳〵ゟ哥乃癖ありて已ゟ遲筆乃癖あまく書房ゟ催促の輻ゟをけ熟思ひ一季ゟ三十種五十種を著作本吏ゟ冗庸ゟあゝぞ鬼神欤天狗欤妖怪欤洋連ゟ飾ゟ橙ゟの市ゟ豈年ゟとゝ〳〵ゟ市迄延つけ考通ゟ腹匝てゟ十種ゟ爭覚束無ふゟゟゟで他ゟ頻ゟ羨ゟゟ昱愚痴の癖有とゝふべし

安政己未開端

柳下亭種員記

俠客夢蝶兵衛

千代花

今市全右エ門

美濃屋三勝

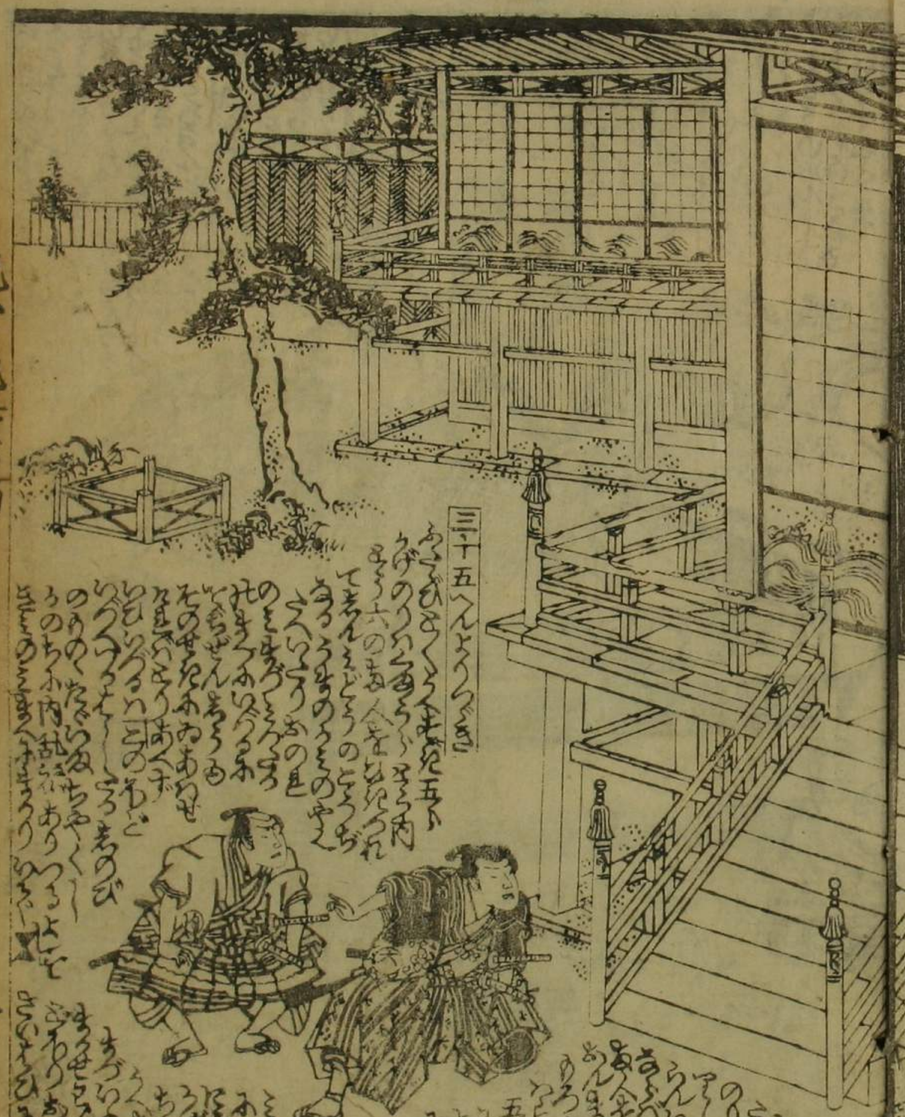
物思ふ
あらべて算も
打ぬれば

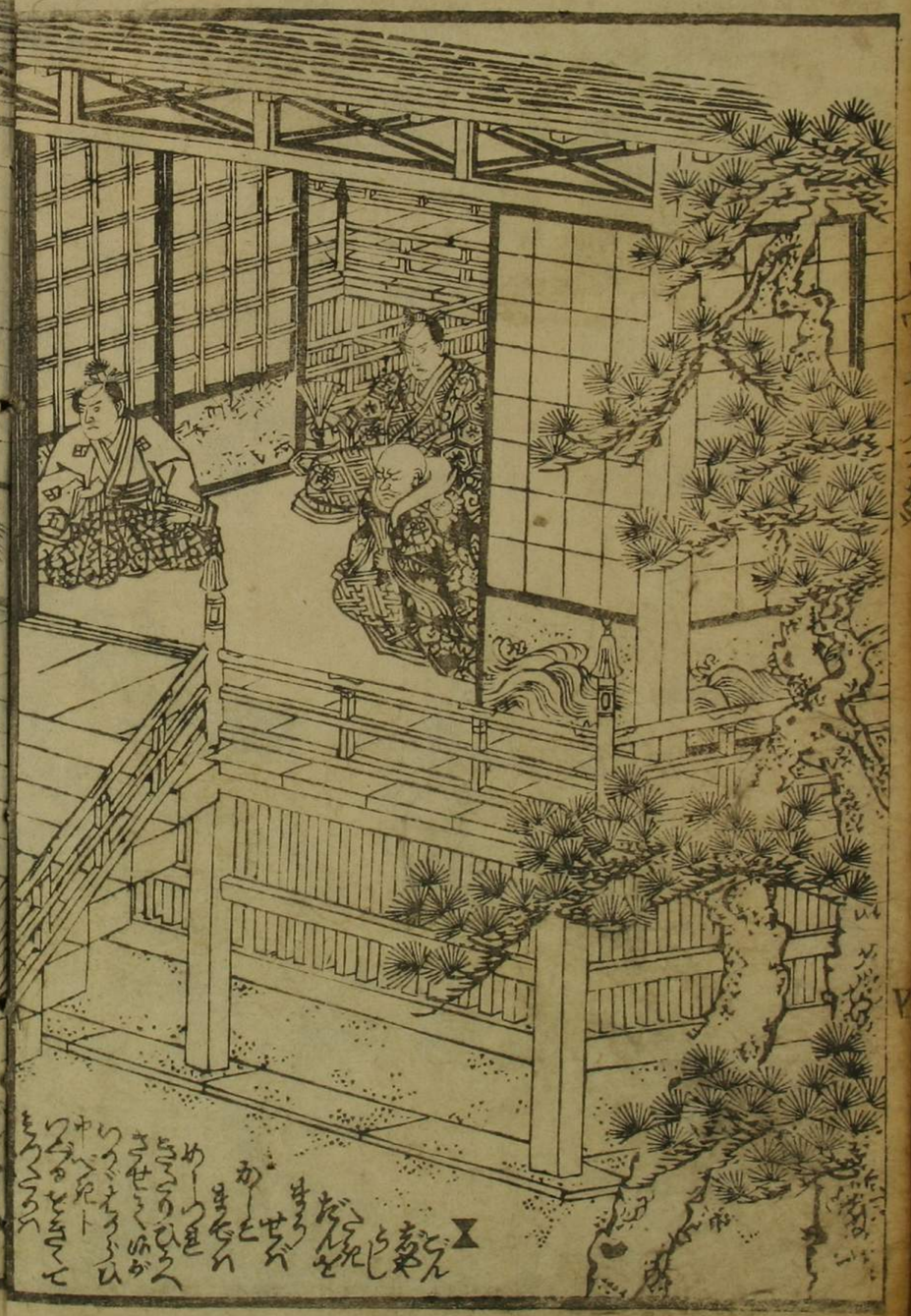

蛞蝓仙人


兒雷也
蛞蝓丸乃短劔
大蛇を退治す

男婦綱手

高砂ノ男見之助義住





是より巻下五丁の画は兒雷也が謀計より限浦兄弟が虚説の物語と出せる

















三の巻へつづく

○浦富士兄弟雛形の太刀を以て

兒雷也が術を挫んとする支

ゐだの後の巻の趣向もつて同画ながら

永くつゞゑんとひて僅ゟ其畫て出ス

種員作 國芳画

仮名反古一休草紙 十編 十二編 一雄斎國種画

小女郎狐化粧鏡 三編 大尾 一雄斎國芳画

照天松操月鹿毛 五編 六編 大尾 春風亭柳枝作 一雄斎國種画

風俗浅間嶽 六編 七編 種員校合 種久抄録 國貞画

柳下亭種員校 一陽齋豊國画 梅素亭玄魚補

一寿齋國貞画

忠義世界二編 初編ゟ編次揃 美濃紙二冊別て売

忠義世界 初編ゟ編次揃 美濃紙二冊別て売

柳下亭種久作 一寿齋國貞画

柳下亭種員作

一勇齋國芳画

仆題曲亭園包

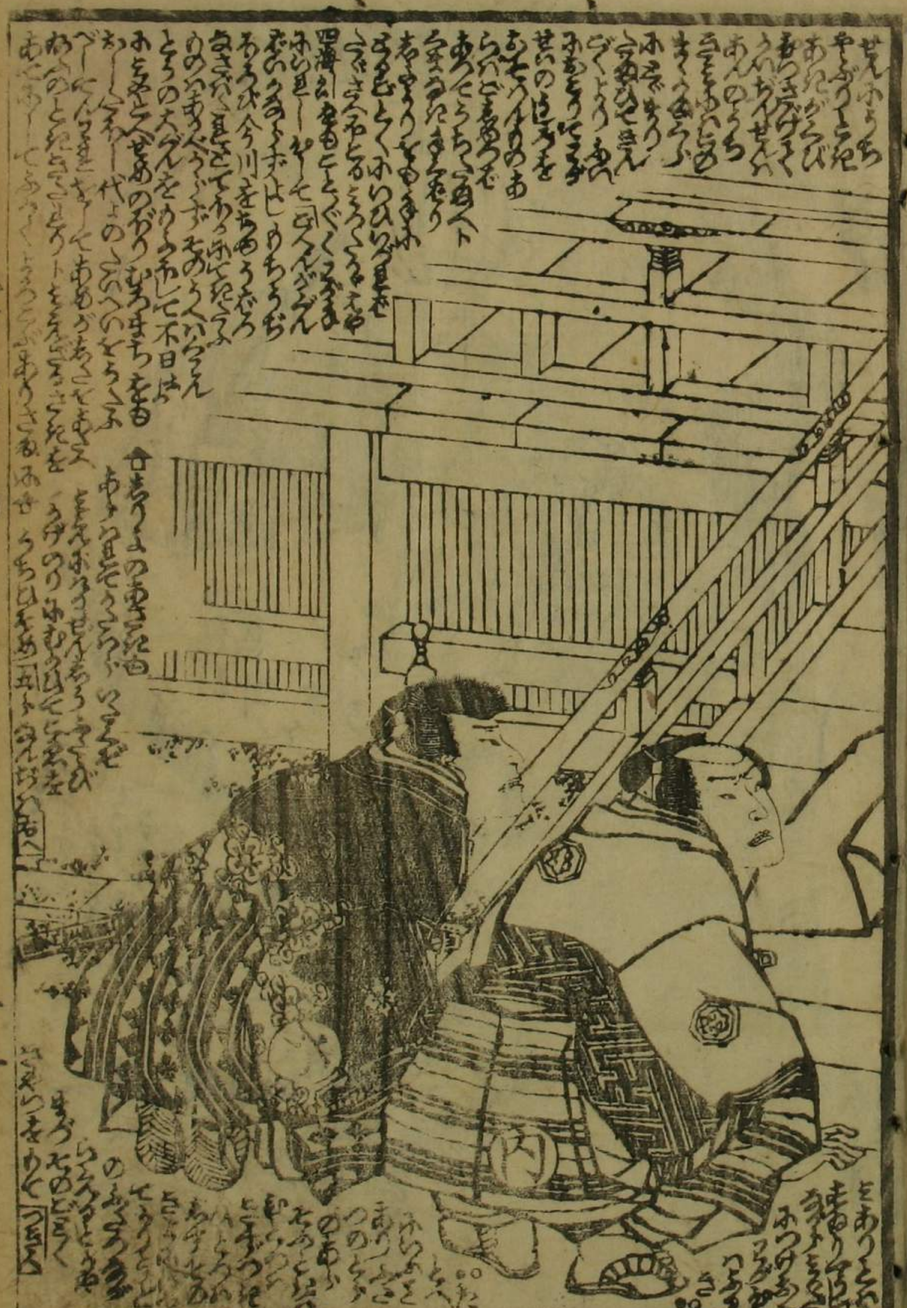
兒雷也神八篇下冊

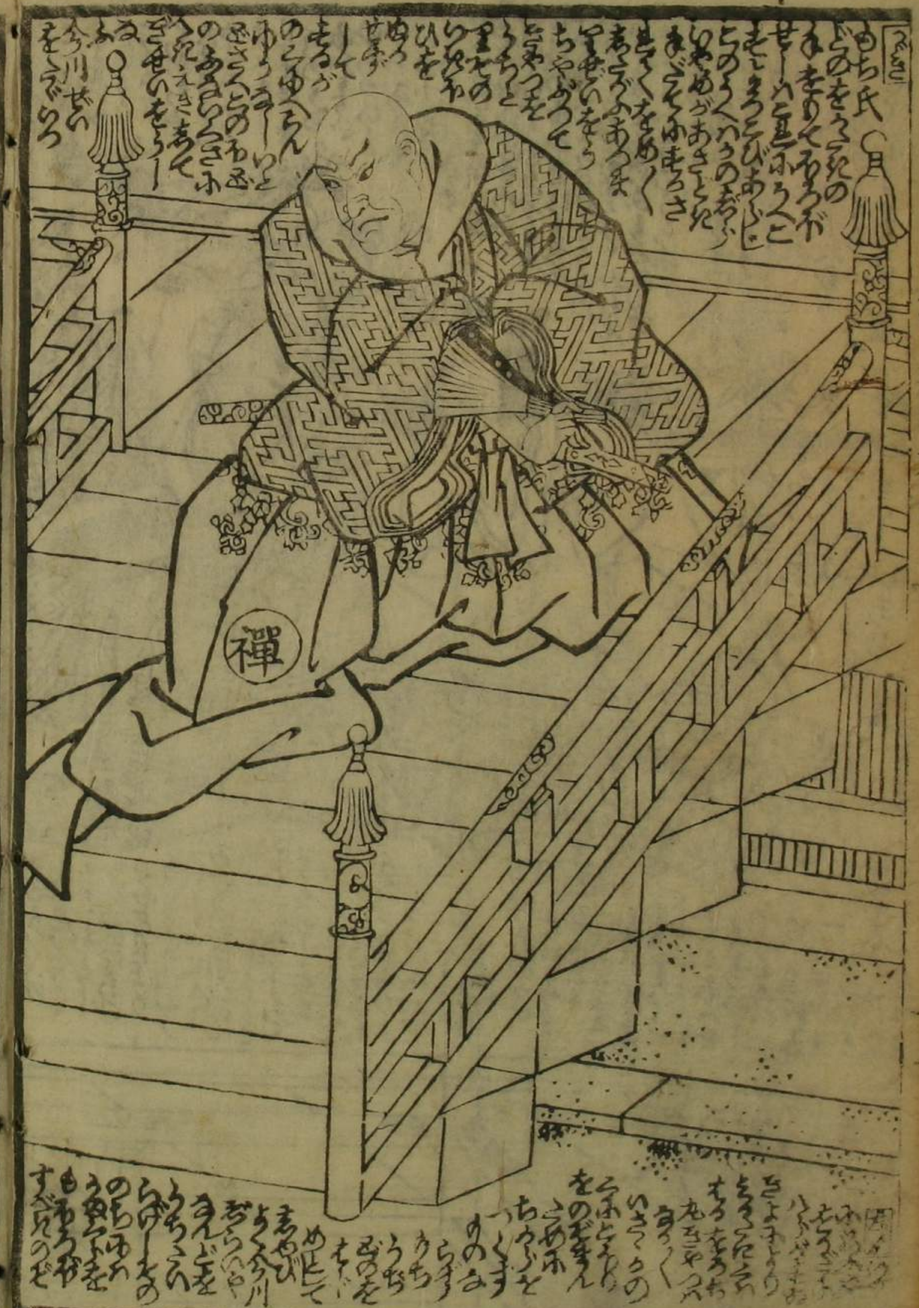
一勇齋國芳畫

吉深堂









○景憲
大蛇丸ふ

悪計
談

兒雷也
今川
義戦を談





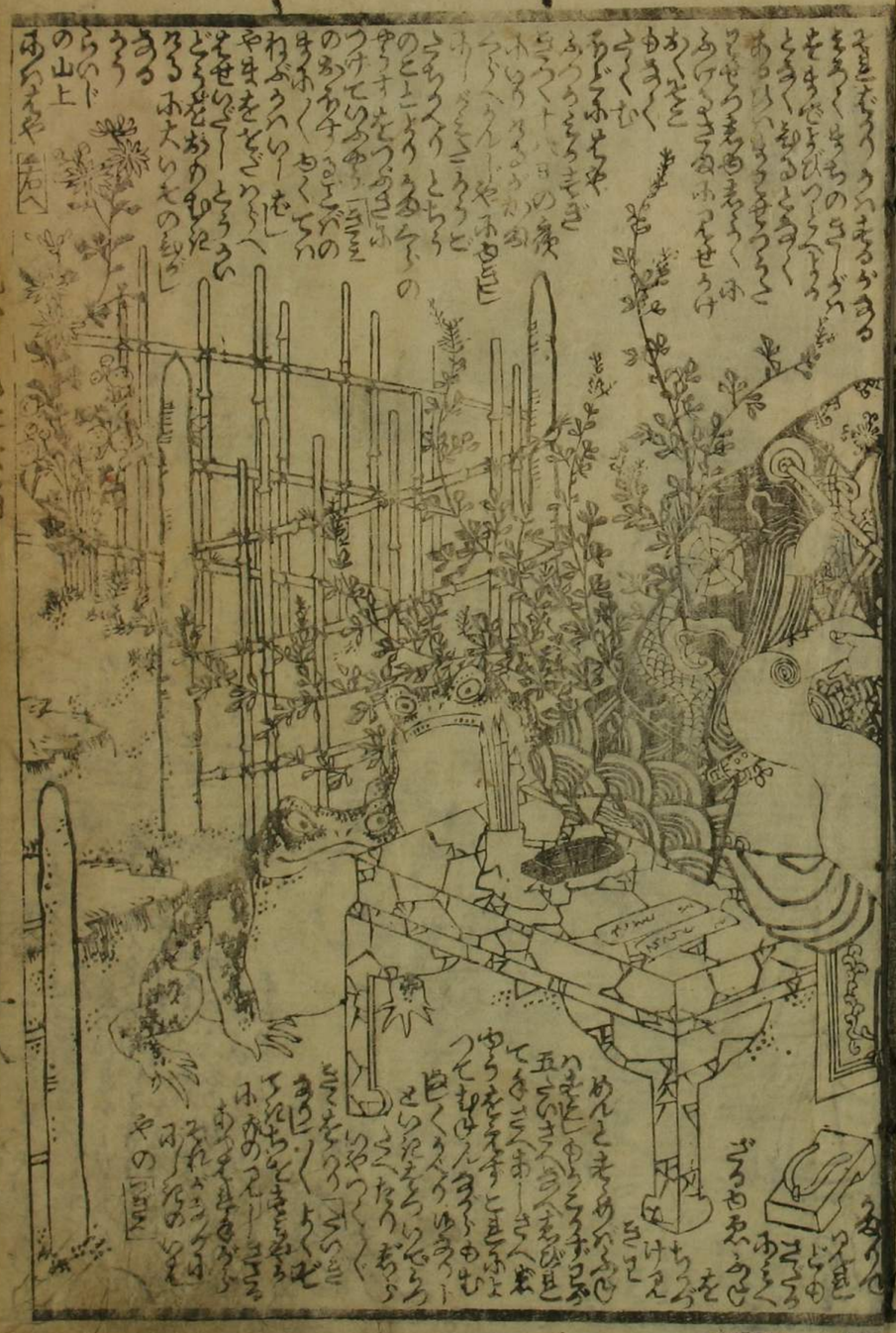




三の巻より











種長作国芳画